

テーマ：『 ビオトープづくり・ホタル飼育を通して身近な自然について考える』

平塚市立 富士見小学校

Tel. 0463-31-0049

担当者： 山口 浩由



写真

完成したせせらぎに、教室で育ててきたホタルの幼虫を放流する子どもたち

■実践内容：

富士見小学校では、4年生の総合的な学習から始まった「ホタルを見てみたい、できることなら学校でホタルを飛ばしたい」という思いを実現するため、ホタル飼育と小さなせせらぎのあるビオトープづくりに取り組んだ。4年生が中心となってホタルの飼育をし、ホタルの棲めるせせらぎづくりには3年生以上の学年が協力した。子どもたちは、10tダンプが積んできた黒土をバケツリレーで、また一輪車で運び、水路の基礎を作った。児童のできない作業についてはPTAの協力も得て行い、約3ヶ月を費やしてホタルのせせらぎがひとまずの完成をみた。3月上旬、せせらぎに初めて水を通す“通水式”のあと、育ててきたホタルの幼虫の放流を行った。そして5月末、富士見小初のホタルが飛んだ。4日間行ったホタルの観賞会に集まった人は、児童・保護者、地域の方など、のべ800人をこえた。

■実践成果：

子どもたちの手でビオトープ造成活動とホタル飼育を行ってきた。ビオトープとしての完成までは、まだまだであるが、ホタルの棲めるせせらぎを自分たちの手で作り上げ、ホタルの飛翔を実現させたことで、ビオトープへの関心は高まり、「もっとこうしよう」「次はこうしてみたい」という思いが膨らんできた。

水のある所には、植物が茂り、生きものが集まってくることも知った。予想以上に鳥が集まってきたことで、今度は、ホタルの幼虫やその幼虫の餌となるカワニナを守るための鳥対策が必要であることが課題となってきた。また、ホタルの天敵は、ザリガニ、鳥などの生きものばかりでなく、それ以上に、“光”が大敵であることも、「ホタル観賞会」を通じて分かり、今後の課題となった。新たな課題が見つけれられたことは、この実践の成果といえる。

また、「学校だより」でも再三、ビオトープやホタルについて取り上げ、家庭に発信したことで、家庭・地域の関心も高まって、今後の子どもたちの活動にも好影響をもたらさそうである。

■実践ポイント：

まず第一に、児童の思いを大切にしながら実践を行っている。その中で、思いを形にしていくには、どうしてもお金がかかる部分があること、また、大人の協力も得なければならない部分もあることを理解させながら進めている。

調べ学習においては、図書室の利用はもちろん、インターネットの活用、さらには、市役所など関係機関への問い合わせ等、ルールを確認しながら実践を行っている。